

科目名	言語教育デザイン論特講	担当者	トヨタ テツヤ 豊田 哲也	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、言語教育研究を遂行する上で必要な統計手法と研究計画について学習し、各研究に応じた分析能力を習得することを目的とする。以下に具体的な目的を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語教育研究において必要となる基礎的な統計的分析手法を理解できる【A-1:4, A-3:4】 ・言語教育研究を遂行するための研究計画を立案することができる【A-2:4, A-3:4】 ・統計的分析手法の中から適切な手法を選択し言語教育研究に用いることができる【A-3:4, A-4:4, A-5:4, A-8:4】 <p>※【】内の番号は日本大学教育憲章ルーブリックに対応</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 言語教育研究における各種評価手法の特徴を理解し、言語教育研究を実践するためのアプローチを正しく理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種統計手法について理解し、説明することができる。 ・研究計画を立案することができる。 ・研究内容に応じた統計分析手法を選択し、結果の解釈ができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の精読 (参考図書含む) ・レポート作成のための関連文献の調査 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio 上でのピア・レスポンス, ポートフォリオの利用</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材を熟読し、レポートを執筆する。 ・レポートの作成と推敲において自己添削を繰り返してレポートを完成させる。 ・教員からの添削を踏まえてレポートを修正する。 <p>【学修時間】 各レポート課題の作成について必要となる時間の目安は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の修得：10 時間 ・レポートの執筆：15 時間 ・レポートの推敲：20 時間 (教員とのピア・レスポンス等を含む) 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月末：レポート課題1 初稿提出 ・8月末：レポート課題2 初稿提出 ・前期課題提出締切日：レポート課題1,2 最終稿提出 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月末：レポート課題1 初稿提出 ・12月末：レポート課題2 初稿提出 ・後期課題提出締切日：レポート課題1,2 最終稿提出 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	構成, 表現方法, 課題の認識, 論旨の明確さ等に加えて, 以下の基準で評価する。 ・教材内容の理解度 (レポート初稿を基に評価) ・レポートの完成度 (レポート最終稿を基に評価)
	平常評価	20%	ピア・レスポンスへの参加度, レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート提出前に, 自己添削によるレポートの完成度向上に努めること。 ・レポート提出の締切は厳守すること。 ・レポート作成にあたって引用した情報は必ず明記すること。 ・レポートは研究倫理を遵守して作成し, 無断引用等の研究倫理違反には十分留意すること。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 石川慎一郎，前田忠彦，山崎誠 教材名： 『言語教育のための統計入門』（くろしお出版，2016） ISBN 978-4-87424-498-2，2,800 円＋税
	本書は全編を通して言語コーパス研究における統計的分析手法について取り扱っているものの，言語教育研究において用いることのできる分析手法がわかりやすく説明されている。また，同封されているソフトウェアを使って実際に統計分析を試すことができる。
参考図書	島田めぐみ，野口浩之『日本語教育のためのはじめての統計分析』（ひつじ書房，2017） ISBN 978-4-89476-862-8，1,600 円＋税 奥村太一『教育実践データの統計分析 -学校評価とよりよい実践のために-』（共立出版，2012） ISBN 978-4-320-11028-1，2,500 円＋税
履修上のポイント	言語教育研究を進める上で必要な統計分析について学び，それぞれの分析手法をどのように言語教育研究で役立てられるかを考えながら学習を進めること。その際に，各分析手法について詳細に理解できなくても構わないが，研究目的を明らかにするための正しい分析手法は何なのかを考えながら学習してほしい。
レポート課題 1	第 1～5 章までを読み，記述統計，推測統計，仮説検定，相関分析，回帰分析について学び，言語教育研究の分析においてどのように用いるべきかを論じる（4,000 字程度）。 留意点： 対象の言語教育は，日本語教育に限定する必要はない。言語教育研究をベースにするのではなく，各分析手法をベースに記述すること。
レポート課題 2	第 7, 9, 10 章を読んだ上で 3 つの分析手法を簡潔にまとめて論じる。さらに，3 つの分析手法の中から 1 つを選び，言語教育研究のサンプルデータを使って分析し，分析結果について論じる（5,000 字以内）。 留意点： サンプルデータは擬似的なデータを自分で用意すること（教材，参考図書に掲載されているものは不可）。研究の目的とデータの特徴，分析手法を選択した理由についても述べること。分析には基本教材同封のソフトウェア以外を用いても構わない。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 西村純一，井上俊哉 教材名： 『これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法』（ナカニシヤ出版，2016） ISBN 978-4-7795-0998-8，2,800 円＋税
	本書は心理学の初学者向けに，基礎的な研究法と収集データを分析するための統計法についてやさしく書かれている。研究計画の立案と研究目的に応じた分析手法を理解することが可能である。
参考図書	三浦省五，前田啓朗，山森光陽，磯田貴道，廣森友人『英語教師のための教育データ分析入門』（大修館書籍，2004） ISBN 978-4-469-24493-9，1,600 円＋税 鈴木真人『分散分析と実験計画法』（日本工業新聞社，2018） ISBN 978-4-526-07829-3，2,400 円＋税
履修上のポイント	研究計画を立案するためのポイントを押さえながら学習を進めてほしい。基本教材は言語教育を対象としていないが，言語教育研究を進めていくために参考になる教材である。参考図書と併せて精読されることを勧める。
レポート課題 1	第 I 部を読んで体系的にまとめたうえで，2 つの異なる言語研究の研究計画を立案して，研究方法の妥当性について論じる（5,000 字以内）。 留意点： 分析手法にこだわる必要はなく，立案した研究方法で何を明らかにしたいのかについて論じること。
レポート課題 2	第 II 部を読み，t 検定，分散分析についてそれぞれまとめ，レポート課題 1 で立案した研究計画に対して適切な分析手法を論じる（5,000 字以内）。 留意点： レポート課題 I で立案した研究計画で分析が難しい場合は研究計画を修正したことを明記して，何故分析が難しいのかについても論じること。